

論文内容要旨

論文題名：心臓カテーテルアブレーション治療患者の IVR 室占拠時間
短縮に向けた取り組み

専攻領域名：医療マネジメント領域

氏名：百石仁美

内容要旨

【背景】近年、X 線や超音波による画像ガイド下で施行する低侵襲治療 Interventional Radiology (以下、IVR) が行われており、中でも Catheter ablation (以下、ABL) は、発展的な治療として注目されている。A 病院の IVR 室は、さまざまな診療科が曜日別の枠で治療を行うため、限られた枠の中で安全性を担保しながら効率的な治療が求められている。また、入室や患者入替、退室に時間を要し、IVR 看護師の時間外勤務が顕在化していた。さらに院内異動によって、IVR 室では ABL の介助の未経験者が増加した。

【目的】IVR 室の占拠時間の短縮に向けて実施した、教育、連携、業務分担の 3 つの取り組みの効果を検証する。

【研究期間・方法】対象は A 病院の IVR 室で ABL を行った患者と ABL を担当した IVR 看護師で、研究期間は 2017 年 4 月から 2019 年 3 月末までとした。取り組みとして、1) IVR 看護師の教育、2) 病棟との連携、3) IVR 室の業務分担を行った。ABL 1 例目の開始遅延件数の割合と開始までの時間、患者入替インターバル時間と IVR 室の占拠時間、IVR 看護師の 1 人当たりの時間外時間、合併症発症・インシデント件数について電子診療録を用いて後ろ向きに調査し、取り組み前後で比較をした。

【結果】ABL 開始遅延件数の割合、遅延時間、患者入替インターバル時間、IVR 室占拠時間、IVR 看護師の時間外時間数、合併症発症例数は減少し、有意な差を認めた。

【考察】病棟と連携して取り組んだ患者搬送方法の変更により、遅延件数は減少、遅延時間も短くなり、定時に治療が開始されるようになった。また、IVR 室の占拠時間の短縮とインターバル時間の減少により、IVR 室の回転が早くなり、時間内に治療が終了するようになった。リカバリールームの設置とリカバリーナースの配置によってシース抜去の処置に集中した環境を作ることができ、合併症の発生が減少したと思われる。